

業種	試験学習の前と後で、デジタルアクセシビリティの理解はどのように変わりましたか？
サービス業	デジタルアクセシビリティを通じて世の中に貢献できることがある
	技術的な支援だけでなく支援者のスタンスや姿勢も重要と感じた
	社会モデルとして障害を捉えなおすことで、自分の仕事でこの世からいくらかの障害そのものをなくすことができるかもしれないと思に至った。
	様々な技術支援機器によるサポートが中心なのかと思っていましたが、想像以上にかく PC やタブレットを使用した支援に関する内容の説明が多く驚きました。既存の支援機器もあまり安価ではありませんが、PC やタブレット等はそもそもの単価が高く、そういったデジタル機器の利用に抵抗感のある人々（特に支援を必要とする方の身近な人々）が多いように感じていたので、どのようにサポートをすべきかよく検討する必要があると感じました。
ソフトウェア・情報処理・提供サービス業	PC やスマホに様々なアクセシビリティの機能が備わっていることがわかり、PC を当たり前前に操作するのと同じくらいにスムーズに設定したり、可能なアクセシビリティの機能を知っておきたいと思いました。
	アクセシビリティを障害者対応ということではなく、生活のしやすさ・しにくさという視座からとらえることができた。
	おおきく変わったのは障害観のとらえ方でした。 事故や加齢などで今後、自身も障害を抱える可能性もあると感じました。 それぞれのひとがより豊かに輝くためにデジタルアクセシビリティはあるのだと改めて感じ、今後も勉強を続けていきたいと思っています。
	これまで設定の名称にあまりこだわらなかったのですが、試験学習を経て正確な名称を使うよう心掛ける必要があると理解しました。また、法令や障害に対する経緯についても現在をするうえで重要であること理解しました。
	デジタルアクセシビリティを意識したシステムが社会の標準になっているので継続して学習を進めていきたい
	デジタルアクセシビリティを万人に幅広く認知してもらいたいと考えるようになった。
	一つは、機器のアクセシビリティ機能をあまり知らなかったため、目の前の開発におけるアクセシビリティ対応だけでなくどのような機能の元つかわれるのか意識できるようになると思う。
	会社の同僚と Web のアクセシビリティについて勉強会を行っていますが、OS の支援技術について学ぶ機会はありませんでした。今回学習する過程で、特別な機器を使わずとも身近なデバイスを使って工夫できる余地があると知ることができました。また、ICF の考え方を初めて知り、障害のあるなしにかかわらず環境因子によって人生が左右されることを改めて認識しました。自分や周りの人にとってよりよい環境を作るためには、今回の試験内容のような知識が必要不可欠だと感じています。

	経緯をすることができ、より理解が深まった仕事に役立てていければと思う
	今まであまり自分の知識と福祉がかかわりがあるように思っていませんでしたが、より広く物事や社会に対して関心やかかわりを意識するようになりました。
	最新の支援技術に対する知識が不足していることに実感させられたので、実際の製品や機能をと試す機会を増やそうと思った。
	仕事に活かしたい
	自分の知らない障害もあり勉強になりました。
	自分も無関係ではないと当事者意識が高まった
	障害に関する法律が作られてきた流れを追うことができました。 また、テクノロジーの歴史も少し知ることができたように思います。
	障害に対する考え方が変化していることと、OSにおいて対応できる部分があることを知りました。
	障害に対する法制度、認識の変遷を学び、アクセシビリティが社会に与える影響が大きいことを理解できました。
	障害観の変化によってニーズが高まっていることが理解できた。入力デバイスに想像以上に多くの種類があることが分かった。
	障害者向けの補助だと思っていたが、自分たちの生活にも役に立つものがあること。また、身近にある端末で補助機能がすでに色々あること。障害者はあくまで一つの特性であり、ほかの人と同じように生活するために、何を必要としているか、それを表すために法律などが制定されていること。このあたり理解が深まりました。
	障害者支援が各個人ごとに対応することの難しさを感じました。
	情報アクセシビリティについての理解度は変わっていませんが、デバイスごとの具体的なアクセシビリティ機能の名称と背景となる法令についての理解が深まりました。
	身近に使える機能がこんなにあるとは思わなかったので、使わないのはもったいないと思いました。これらの機能を知ることで、多くの方の就業などの支援などできたらよいと思いました。
	普段使っていない機能に目がいくようになった。
	福祉情報技術コーディネーターを取得済みだが、情報技術や法令などが進化していると実感した。
	勉強になりました
	様々な法律や制度が変化してきていること、また様々なデジタルによる支援が広がってきていることから、デジタルアクセシビリティの重要性について、改めて強く認識することができた
マスコミ	お客様からの問い合わせを受ける部署にありますが、視覚障害の方から「提供しているデジタルサービスの一部がVoiceOverに対応していない」と要望を受けても十分な理解ができませんでした。この試験を受けるにあたり初めてお客様の要望を理解することができました。

	<p>まだまだ勉強不足でした。</p> <p>もっと勉強できればと思います。とても勉強不足でした。</p> <p>知らないことが多かったです。</p>
メーカー/製造業	<p>デジタル寄りの知識を多く持つことで、よりよりサポートができると思っていたがそれではだめであることの理解がより深まった</p> <p>メーカーの人間なのでインクルーシブデザインやアクセシビリティについてはそこそこ理解していたつもりだったが、全く知らなかったデバイスやそれ以上のサポートが必要だと理解した。</p> <p>学んだことで理解は深まった。</p> <p>具体的に必要となる方々に対して、何かサポートが行えるような意識を持つことが出来た。結果に関わらず引き続き学んでいきたい。</p> <p>社会モデルの理解が進み、障害との向き合い方について価値観が大きく変わった。引き続き勉強して支援者として貢献していきたい。</p> <p>昔と現在で、アクセシビリティの考え方が個人から環境全体に変わったことを理解した。</p> <p>補助機能の発達</p>
	<p>今現在の技術でできることが把握でき、通常の iPad 等のみでも（特殊な機器がなくても）できる事が多いことが分かった。普段は Windows や Android しか使わないため、iOS や macOS のアクセシビリティについて知ることができた。</p> <p>OS 系の知識や情報が個人的に不足していたこともあり、外部の用具にいきなりアクセスするのではなく、身近なものから設定変更などができる部分もあるということを知りました。</p> <p>アクセシビリティにかかわる様々な機能や器具があることを知り、IT 機器の操作方法の選択肢やイメージが広がった。</p> <p>アクセシビリティの活用方法を学ぶことで、利用できる人へのアドバイスがよりできるようになりました。</p> <p>アクセシビリティ操作と名称・概念の理解が進んだ。</p> <p>アンドロイドやウィンドウズ、ios などそれぞれのアクセシビリティの方法をほとんど知りませんでした。学習時においても、実際に触れる機会はないものも多いので、用語や方法については理解が浅いように思いますし、用語や方法に馴染みがないので、とっつきにくさがあります。デジタル系に苦手意識も強いので、今回の受験においても、用語を読むだけでは上手く理解できていないことが多いです。</p> <p>このような知識を持った人がより多く必要であることがわかった。DAA が広まることが良いと感じる。</p> <p>デジタル支援機器を使用することで、高齢者も障がい者もみんなが快適に生活できる環境をつくることができるといった認識が強くなった。</p> <p>どのデバイスにも十分な標準アクセシビリティが備え付けられていることに驚いた。</p>

<p>パソコンやスマホで便利な機能を使いこなしたいと感じた。また新しいものと思いがちだが、歴史があってこそその便利な時代であると感じた。</p>
<p>まだまだ、知識として身につけていない。</p>
<p>一つの OS だけでなくメジャーな OS を学習したので知識の幅とアクセシビリティ機能の理解が広がりました。</p>
<p>何気なく使用している機能がアクセシビリティ機能であったことに驚きと感銘を受けた</p>
<p>過去の歴史から知ることで現在の状況に至った背景を知ることができてよかったです。</p>
<p>学習したことで、障害に対する理解が深まり、支援を行う手段について選択肢が増えました。</p>
<p>近年の進歩について知ることができた。</p>
<p>苦手意識があるデジタルアクセシビリティだったが、超高齢化社会で人材不足や情報が溢れる中、今後益々必要不可欠であり重要な知識であることがわかった。また支援機器やこれらの知識をサポートができる人材が増えることにより、情報格差や孤立の減少、QOL の向上に繋がっていくことがわかった。</p>
<p>具体的な操作方法について知る機会となった。</p>
<p>子育てで我が子にアクセシビリティをフル活用していました。しかし、今回の試験を通してまだまだ活用方法できていないことがわかりました。コストパフォーマンスと対象に必要なサービスを考えながらマッチングを考えていくこと非常に重要だと感じました。今後、高齢者のサポートには、デジタルになれる機会をどのように増やし、詐欺などの被害にあわないように QOL を維持できるような環境が必要か？常に支援者側がブラッシュアップして対応していくことが必要だと思いました。</p>
<p>支援ができる方法や法令の変化が多くあり今後役に立てれると感じた。</p>
<p>試験学習を通じてデジタルデバイスへの理解がさらに深まりました。また、デバイスが必要とされる環境の変移を知る事ができました。</p>
<p>試験学習前は、障害のある方に対する支援を行う職業についているものの、デジタル機器の進化に対して知識が遅延しているという認識がありました。知識が増えていく中で少しでも、対象となる患者さんや困難さを感じている方に対して、有用な支援を検討できるように、様々な可能性を対象者と考えるようにしたいと感じるようになりました。</p>
<p>試験前は、テキストを読んだら何とかわかると考えていましたが、やはり何度学習しても対象者の方と出会い実際にその端末を使ってみないとスキルが身につかないことを痛感しました。</p>
<p>自身の使用しているアンドロイド端末のアクセシビリティを調べるようになった。</p>
<p>自分の苦手な部分が把握でき、今後の理解を深める良い材料となりました。</p>
<p>自分の知らない様々な便利なツールがたくさん世の中にはすでに出ているのにもかかわらず、ユーザーがそれを活かしてないのがとてももったいないと感じました。そして現代社会においては、10 人いたら 8 人にはその情報が必要で、活用できたら便利なので、デジタルアクセシビリティを活用できる人材がいかに身近にいて、周りの人々をサポート</p>

<p>できる体制をとることができるか、ということが、人々の暮らしをより豊かにするのではないか、と思いました。</p>
<p>社会生活を営む上でデジタルの活用は不可欠です。このアクセスに困難があれば、生活機能の制限を来します。そのため、本アドバイザーは現代社会に不可欠な職種になると思います。</p>
<p>社会背景、現状や今後の動向を受け、デジタルアクセシビリティの知識がなぜ必要なのか、そしてやりたいこと、あるいは困難さに対して、具体的な支援技術や支援機器の種類が多くあることがわかりました。また、障害のある方だけではなく、誰もが当たり前に行きたいことを実現できるよう、使いやすく便利で安心して快適に暮らせるツールとして役に立つことがわかりました。これからの社会には欠かせない知識だと思いました。</p>
<p>重要性をますます感じた。福祉分野だからこそ、デジタル推進を関連付けていく必要がある。eスポーツがテキストに出てきてうれしかった。</p>
<p>障がい者への支援の一環として一人ひとりに合うサービスの選択肢が広がった。</p>
<p>障害が「生きづらさ」であることをできました。法令等の変遷から、日本の進め方向が理解できました。</p>
<p>障害が障害者に問題があるわけではなく支える周りの環境に問題、すべての人が生活をしやすいするための障害がありすべてのひとが生活をしやすいため、すべての分野の活動に参加するため、認識・考え方 意識を変えてよりよい環境にするために進歩する科学技術を良いかたちで、一人ひとりの特性やニーズに応じて環境を調べて行く必要性、ITを用いることでアクセシビリティへの意識を高めることで人の可能性をひろげよりよい共生社会の実現につながるとおもい、考え方や具体的な方法について学ぶことができてとてもためになりました。今後学んだことを活かし社会や人に役立ちたいとおもっております。誠にありがとうございます</p>
<p>障害とは何か、という事を単に心身の機能や状態のことだと思っていました。 この試験の学習により、そのような概念ではなく誰もが生活の主体者であり、だれもお互いを尊重しあって生きてゆく社会を実現するために各個人がこの内容を理解している事はとても大切だと感じました。</p>
<p>障害者の理解や支援器具の使い方や当てはまる人の区別がしやすくなった。</p>
<p>身近なアクセシビリティが増えていることに感動した。視覚、聴覚にたいしても知れてよかった。</p>
<p>世の中全体で、インクルーシブな社会を造り上げていく必要がある。その一端に少しでも関わられるように努力したいと感じました。</p>
<p>制度や各機器の理解を深めることができた。</p>
<p>対象者にどのように AT 機器を導入していくかに着目しがちだったが、対象者と支援者だけでなく、対象者の家族や医療関係者等とも一緒に、対象者の感じている困難さに対処していくことが重要と理解した。</p>
<p>特に変わっていません。</p>

	<p>日常的に使用しているアクセシビリティが徐々に当たり前になってきていることを実感しました。</p> <p>普段しようしているものでも、使える機能があったことに気づくことができました。今後はそれを活用できるように日常的に使っていきたいと思いました。</p> <p>普段使用していなかったアクセシビリティも知ることでよかったです。使っていなかったものも使ってみてみたいと思いました。法令の理解が弱かったので改めて流れが分かるようになりました。</p> <p>福祉関係の仕事をしており、担当している利用者様の支援が必要となったため、学習しました。教科書の中で出てくる「あるテク」という言葉に、心を打たれました。新しいものを用意して、支援する前に、今あるもので、できることはないか考える視点がとても重要だとわかりました。早速実践に生かしたいと思っています。</p> <p>福祉機器を使用するだけでなく、身近なテクノロジーをまずは検討することが必要であると感じた。</p> <p>法律の歴史や社会の意識の変化についてはこれまでまとまった知識を持っていなかったの でたいへん興味深く勉強できた。 支援の技術では、仕事の上で知ることになった Windows と iPadOS のアクセシビリティ機能以外のことも知ることができたのでたいへん勉強になった。今後の業務にも生かせるのではないかと思うようになった。</p> <p>訪問型の児童発達支援の児童発達支援管理責任者をしています。子どもたちのできた！が広がっていきけるように DAA の知識を活用していきたいです。</p> <p>様々な方に対する支援の方法を学ぶことができました。個々人の方々に寄り添えるイメージが持てました。</p>
運輸・通信業	<p>まだまだ勉強不足なので理解に至っていません</p>
卸売・小売業、飲食店	<p>I was able to learn about detail of accessible feature on each OS and devices.</p> <p>テキストに記載されているアクセシビリティ機能について調べているうちに、必ずしも障がい者や高齢者だけでなく、すべての人にとって使いやすくなる機能もあり、アクセシビリティは万人のものであることがわかりました。</p> <p>まだまだ知るべきことがたくさんある。</p> <p>まだまだ勉強が足りないと認識した</p> <p>広範囲に興味を持つようになった。</p> <p>用語に関する出題がほとんどであったため OS ごとにきちんと覚えていなければいけないと思った。</p>
教育・学習	<p>macOS のことや法律のことをあまり知らなかったので、今回の試験でしれました。</p> <p>アクセシビリティを活用することで障害のある人のできることが拡充されること、それを自分がどのように障害のある人に取り組めるかを考えていきたい。</p>

<p>いままで自身の必要とする範囲の部分しか理解していなかったこと。支援に対して、多角的に臨んでいたつもりではありましたが、それも知識の一部のみを使ってしか取り組んでいなかったと気づかされました。今現在も技術は進歩し続けているので、これからも学びを続けながら取り組みたいと思います。</p>
<p>その時代時代の背景が大きく影響を受けていることを学んだ。以前からの考えと変わらな いが、当事者自身の自己選択、自己決定を大事にする必要性を改めて感じた。新機器とし てハイテク機器とローテク機器のどちらのどの場面で使うかを選択させることは支援に当 たる際に心がけたい。そして、これからも支援に携わっていく中で、最新機器の情報取得 を行い、支援の選択肢として提示できるように努めたい。</p>
<p>それぞれのニーズにあわせること、法律など整備されていることがよくわかりました。</p>
<p>テクノロジーを活用することで、支援を必要としている人が自立して社会参加するきっか けとなることが分かった。また、身の回りにあるデバイスにアクセシビリティが標準装備 されており、健常者であって活用の余地があることが分かった。</p>
<p>デジタルアクセシビリティについて、より興味がわき、もっと深く勉強したいと考えるよ うになった。また、日常で何かデジタルアクセシビリティに困っている方がいればサポー トしたいと思うきっかけになった。</p>
<p>デジタルアクセシビリティの学習をすることで、今後、障害のある人や高齢者など、多く の人にIoTやATなどをコーディネートしていく人やそのための地域における仕組みがます ます必要になってくると感じました。まずは、地域ICTクラブを探し、参加してみること から始めていこうと思います。そして、ゆくゆくは家族や職場の人など、身近な人からで もそのような場につなげていけるようにしていきたいと考えるようになりました。</p>
<p>デジタルアクセシビリティの知識と障害の理解がまだまだ足りてないことが分かった。</p>
<p>デジタルが日常生活に多く取り入れられるようになる前から、様々な機能を有効活用し て、一人ひとりの障害に合わせて試行錯誤を繰り返してきた歴史があるということに驚い た。また、自分にはまだ使えていない機能がたくさんあるということに気づかされた。</p>
<p>デジタル技術の普及により、共生社会の実現は近くなっていることを実感しました。</p>
<p>まだまだ理解しきれませんが、これからも引き続き学んでいこうと思います。</p>
<p>より具体的に理解するようになりました。</p>
<p>より障害について深く学ぶきっかけを持てるようになった</p>
<p>以前は、変化する社会の中で皆が新しいことをどんどん身に付けていかないと考えるこ とが多かったが、特に高齢者のデジタルデバイドということをよく考えるようになりました。 障害者同様に周りのサポートが不可欠と考えるようになりました。</p>
<p>学習が不十分なので、前後の理解は変わりません。改めて学習することで知識的な理解を もっと深めたいと思います。</p>
<p>学習後に実際に当事者の方へ支援する機会があり、学んだ知識や理解がさらに深まった。</p>
<p>教育だけでなく社会の課題として学びを進めていきたいと思った。</p>

<p>今は発達障害の子供を主として支援しているが、だれにでも支援できるようになりたいと考えるようになった</p>
<p>今まで実践してきたことの裏付けができたことと、社会の変化や法令等の理解をもとに、もっと情報を得ることで、支援の幅を広げることができると思うようになった。</p>
<p>仕事に関連して、いろいろな面で学びに困難を感じている子たちに、デジタルをうまく使うことで、学びを進められるかもしれないと思うようになりました。今回学んだことが、すでに活用できていることもあります。今までは無理だろうと思っていたことも、チャレンジできるのではないかなと思うようになったし、デジタルでできることを伝えて、子供たちにもチャレンジしてもらいたいと思うようになりました。学習したことで理解が深まりました。</p>
<p>使えるアクセシビリティが他にもあるのではないかと調べるようになった。普段利用しない Android 端末のアクセシビリティにも関心を持つようになった。</p>
<p>支援技術の内容が日々変わってきていることが理解できた。</p>
<p>私自身、聴覚障害があります。知っていることは多いと思っていましたが、あらためて勉強になりました。</p>
<p>私自身が聴覚に障害があるのでアクセシビリティについて取り組んできました。iOS はほとんど使わないのでもっと学びたいと思います。</p>
<p>試験前は、「なんとなく、アクセシビリティがわかる」という感じであったが、試験により限定された OS、機種 of 操作方法以外も習得するようになり、デジタルアクセシビリティに関する理解や意識が変化した。</p> <p>また、「なんとなく」操作をしていた機器に関しても、名称を覚えるきっかけになりました。</p>
<p>自分の知識の偏りが明確になりました。特に、Android 端末について、日ごろ扱っていないこともあり、知識が不十分だと感じました。また、Windows や iOS についても、必要な機能は指定しているのに、正しい未詳を知らないなど、あやふやな点がありました。</p>
<p>社会の変化や技術の進化をしっかりととらえることが重要であると再認識したので、新しいサービスや機器について学びながら日々、情報をアップデートしていきたいと思いました。支援するときには、生活の観点で豊かな人生をおくることのできるような視点で適切な支援を提供できるようになりたいと思いました。</p>
<p>周辺機器に対する理解や障害に対する理解</p>
<p>障害に対するとらえ方が変わり、その人らしい生活をするためにはどのような ICT を活用することがよいのかを考えるようになりました。そのための、選択肢がいくつかあることをこのデジタルアクセシビリティの勉強をしていく中で理解してきました。</p>
<p>障害の認識について再度勉強をしようと考えた</p>
<p>障害観に関する世界の動向と関係する法令に関する知識、ユニバーサルデザインやアクセシビリティに関する考え方、各障害に関わる支援技術と支援の具体例をよく理解することができました。支援技術についてはニーズに合わせた高度な専門知識が求められることも</p>

	よく分かりました。高齢化の進む我が国において、共生社会を実現するためにも今後ますます求められる分野であることを痛切に感じました。
	世界へ目を向けること、社会全体の動きを知ること、いろいろな技術をもっと知る必要があると思いました。
	前にも、同様の資格を持っており、時代とともに変化していく状況を再認識できた。
	単に機器のアクセシビリティを設定するための知識を備えられただけでなく、障害観の変化や法令などの流れのなかでなぜアクセシビリティアドバイザーが必要なのかということを知ることができました。学校現場においても GIGA スクールにより一人一台タブレット端末が与えられはしましたが、子供たちが自分に合った方法で利用できているとは到底言えない状況で、かつ先生方も一人一人に合わせて使うことの重要性をどれだけ理解されているのか疑問です。自分にできる範囲で少しでも学んだ知識を活かし学校現場に働きかけることができればと願っています。
	知らないアクセシビリティ機能がまだたくさんあることを学びました。
	知識量の不足を痛感しました。もっと学習しなければ。※78番の問題文にある「OAK」が「OKA」と表記されていたような気がします。
	普段使っている 아이폰 の機能がこんなにあるとは知らなかったです。
	普段自分が使っている電子機器の中にも、様々な人のアシストをする機能が備わっていることに気づき、実際に自分が使用してみることで、使用方法を覚えていった。しかしながら、それぞれの OS での機能の名称など、曖昧に記憶している部分が多いことにも気づくことができた。
	法令の改定内容や、共生社会を目指す世界基準、実際の Windows、iOS、Android で可能なコマンドなど理解することができました。今後、障がい者、高齢者の方々がテクノロジーを利用して、社会参入、そして、社会の一人として営むうえでの障壁をなくすことに寄与でき、その伝達役になれたらと思います。
	理解が大変深まった。教育現場では、タブレット端末を使用するようになったので、デジタルアクセシビリティについて学んだことで、学校での活用を考えるようになった。学校での学びに困難を抱えている子たちの助けになると思う。今までは、教師も児童生徒もただ大変なだけだったが、少しでも学び易くできるのであれば、さらに理解を深めて、手助けしていけるようになりたい。ますます学んでいきたいと考えるようになった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・障害観の変化を深く知ることで、デジタルを通した環境要因による障壁を減らそうと思えました。 ・法令の変化に伴い、これからの日本がどういう方向へ向かって、こういった施策を実行しているのかを知ること、社会貢献に繋がられるように業務に繋がれようと思いました。 ・各種 OS によって、アクセシビリティへの対応が異なっているので覚えることが難しかったです。
	Web アクセシビリティにしか携わったことがないため、各 OS に搭載されている標準機能を知ることができ、更に理解度が促進できました。

<p>Web制作にしか携わっていないため、関連するデバイス関連の操作について学ぶ機会があり、大変良かったと思ってます。障害者の特性や関連する法律の変化を深く知ることで、ユーザー視点に立った制作を行うことができると思いました。</p>
<p>アクセシビリティという言葉は知っていたけど具体的な技術や方法は知らなかったのですが、講座を通して実際に使われている機能を知れました。1つの困難に対しても様々な方法で支援できることを学びました。</p>
<p>システムや法律について理解ができるようになった</p>
<p>デジタルデバイスが少なくなるような社会が早く実現できるようになってほしいと思うようになりました。今後も、ITやIOT、ICTなどに関心をもって、デジタルアクセシビリティについての理解を深めていきたいです。以前より、デジタルアクセシビリティに関して、関心が高まりました。</p>
<p>ボランティアを頑張りたいと思った。</p>
<p>各OSに標準で備わっているアクセシビリティ機能の存在は知りつつも使用方法は知らなかったが、試験学習を通して実際に機能を使用することで、実践的に理解することができた。身の回りにいる困り感を抱えている人に対して、機能を紹介できればと思う。</p>
<p>各OSのアクセシビリティについて、祖父母など身近で困っている人のOSの設定等を行うことで手助けできる程度には理解できた。</p>
<p>各種アクセシビリティ機能における、各OSの対応状況について、「ここまで実装されているんだ」という発見と、それが直感的な導線になっていない印象のある現状についての理解が深まった。</p>
<p>学習前は本当に単語を知っているくらいで、ほとんどがその背景も意味も知らないという状態でしたが、学習後は単語の意味を知ることが出来ました。それが一番大きいと思います。他にも、時代による変化や障害に合わせたアクセシビリティを知ることが出来ました。iOSのアクセシビリティは自分で試すことが出来たので1番理解出来たと思います。</p>
<p>今に至るまでの社会がどのように障害に向き合ってきたのかを知り、これから何を変えることでより良い社会になるのかを考えるようになりました。</p>
<p>自分自身が障がい者になったらとよく考えると、デジタルアクセシビリティはとても深く勉強しておいたほうが良いと理解しました。もっともっと障がい者とその関係家族等の生活環境が良くなってほしいものです。 学習前はほとんど知りませんでした。</p>
<p>少しわかりかけてきました。よかったです。</p>
<p>障がいを抱えると生きづらさを感じてしまい、社会から孤立してしまう原因になっていると感じます。現代の日本では同調圧力がまだまだ強く、障がいへの理解が遅れていると思います。また、近年の医療技術の発達により、これまで生きるのが難しかった人も長生きするようになり、そうした人々が他の人と同様に情報を入手し、日常生活の障壁を取り除くことが今求められていることだと学びました。</p>

	障害とは何か？の定義が昔と比べて変わったなと感じました。
	障害に対する見方が変わってきているのがわかった。
	障害の歴史を知ることで今なぜこういう法律や制度があるのかを知ることができた
	障害を持つ方々に対してデジタル技術がもたらす影響はとても大きなものであることをより深く理解できたと思う。
	障害者手帳をもらうような障害がなくても便利な機能があることがわかった。OSに標準機能としていろいろな機能があることがわかって、自分が知らないだけでアクセシビリティへの取り組みが進んでいる部分もあることを知ったので、どんどん活用していきたい
	色々な機器や技術によって改善させる事柄が多い事が分かった。
	知らないことが多くて、大変勉強になった。よりアクセシビリティの理解の必要性を感じた。
	普段、直接使用しない機器はなかなか理解できない。
	普段の生活では、あまり活用することのなかった機能を知ることが出来た。 様々な OS で障害者に向けたデジタルアクセシビリティがあることを知った。
	普段は iphone を使用していますが、だれのために、なんのためにある機能かわからないものが多々ありました。実際に学んでみると、障害がないにかかわらず、知っておくと便利な機能も多く、機能についてもっと理解が広まれば生活の質が向上されると感じました。
	普段自分自身でアクセシビリティを使うことがなかったため、名前だけ聞いたことがあるものが多かったですが、今回の試験学習を通してアクセシビリティの機能や機種によって名前が異なることを知ることができました。
	法律やその制定の背景など理解が深まりました。
	利用者と一緒に具体的な機器について話ができるようになった。